

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.100 2025.3.17

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山田 晃

事務局 寝屋川市高宮 1 丁目 7-9

千田正喜 宅

☎ 090-4036-0719



見たよカワセミ 冬鳥の観察 打上川治水緑地 2025.1.12

めをさましたら

こりすすみえ

めをさましたら
いつものあさと
なんだかちがう
なんだろう？
なぜだろう？

いつもより しっぽのさがき
ふかふかしているせいかしら
からだのしましまが
つやつやしているせいかしら
そして いつもより
だれかに
あいたくなるせいかしら

わたしは そっと
そとをのぞいてみました
ああ いいにおい！
やわらかいかぜ やさしいそら
そうなんです
めをさましたら
はるでした！

工藤直子著 「のはらうたⅢ」 童話屋刊

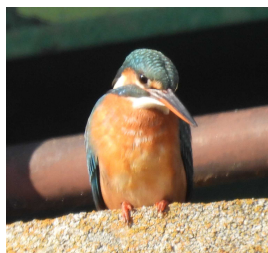
目次

- (2) 行事報告 1 第 7 回定例自然観察会 野鳥、私の散歩道
- (3) 行事報告 2 みんなの掲示板⑥ 淀川 枚方地区の野鳥
野外活動センターの環境整備④
- (4) 行事報告 3 第 25 回展示会 学ぶ会の展示と私の自然観察
- (5) 行事報告 4 第 25 回展示会 関係団体の展示
- (6) 行事報告 5 参加・協力活動 東図書館 エスポアール
みんなでつくる自然教室だより 自然塾⑨⑩⑪
- (7) みんなでつくる自然教室だより 子ども自然シリーズ 講座⑩⑪⑫
・大人自然工作シリーズ・スタッフ研修会
- (8) (9) 特集 1 寝屋川市付近自然観察ポイント
- (10) (11) 特集 2 身近な自然ガイドブック
- (12) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ(8) 「イノデ」
- (13) 自然界のふしぎ アンモナイト 4 「化石発掘記」
- (14) 私の自然観察 身近な昆虫(48) 「オオムラサキ」
- (15) 図書紹介 『水の惑星「地球」』 新会員紹介
- (16) 行事予定 2025 年度総会・記念講演
自然観察会⑧ 私市植物園
自然観察会① 東部丘陵 ② 淀川点野野草地区

第7回自然観察会 野鳥（打上川治水緑地・新宮池） 1月12日(日) 参加者 43名

～カワセミの歓迎～

中井 新一



カワセミ♀



ミコアイサ♀

去年は雨で流れたこの観察会ですが、今年は晴天に恵まれ楽しい観察会になりました。

早速出迎えてくれたのは、皆さん大好きなカワセミです。集合場所の水門の上、また、下に降りて柵の上へと、観察会をスタートする前から大サービスをしてくれました。その水門の内側で赤い顔をしたバンが餌を啄(つ)いば)んでいます。池の中程には、カイツブリに混じって3年振りにミコアイサ(メス)が潜っていました。



カワセミが見えるよ！

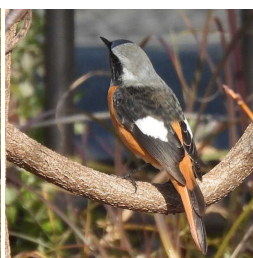
いつもはゴイサギの棲みかになっていた中州のヨシ原は、刈り取られて数本の木を残して坊主になっていましたが、そのゴイサギ君、対岸に見つけることができました。また、サギ類が毎年巣をかけるサギ山が健在なので居なくなることはないと思います。今年もたくさんの雛が誕生するのを楽しみにしたいです。さて、ヒドリガモの団体を観ながら人工の川にさしかかると、このところ数が激減してきたセグロセキレイが1羽、ウロウロしています。日本の固有種であるセグロセキレイはハクセキレイに居住権を脅かされているようで少し心配ですね～。

後半の寝屋川沿いでアオジ、メジロ、ジョウビタキなどの小鳥類を追加して楽しい観察会が終わり、34種の野鳥に出会いました。

今年は子ども5名を含む43名の方の参加がありました。



セグロセキレイ



ジョウビタキ♀



メジロ



鳥あわせ

私の散歩道

「大好き！打上川治水緑地」

大嶋 眞砂代

打上川治水緑地でのお散歩中、出会えて一番うれしいのは、カワセミです。見つけられたらテンション爆上がり。小さな体に似合わない大きなくちばし。池の水面をピューッと飛んでいくエメラルドグリーンの背中。獲物に狙いを定めてホバリングする力強い羽。「今日は会えた！」そんな日は、ウキウキ気分が家路につく私です。冬には、緑地内を我が物顔でヨチヨチ歩くヒドリガモ、水面をグルグル回るハシビロガモ。春には、子連れで歩くカルガモ、マガモのお母さんや鷺島と密かに命名したコサギとアオサギの営巣地など見どころ満載の打上川治水緑地は、大好きなフィールドです。皆さんも足を運んでみてください。



カワセミ♂

第6回みんなの掲示板 淀川 枚方地区の野鳥 2月11日(月・祝)

参加者 31名

～ええ写真いっぱい撮れた～

中村 清秀



キセキレイが！

参加者は31名。その内子どもが7名参加してくれました。カメラを持っている子どももいました。集合場所でまずびっくりしたのが、バッサリ切られた雑木林。淀川の防災のためだそうです。



キセキレイ

上空でトビが輪を描いている中、多自然池付近ではアオサギやコサギが。少し残る雑木林でムクドリ、エナガ、ホオジロなど。淀川の川面が見通せる遊歩道からはオオバンやキンクロハジロの群れ、川の中央付近にカワアイサ、カンムリカイツブリ、オカヨシガモも見つけました。天野川河口付近でカワセミやキセキレイ、イソシギなどを見つけると、大人も子どももスコップを覗く度に“わあ、見えた、きれい”と声上がる。天野川に架かる橋脚にイワツバメの巣があり、上空で飛び回っていました。



雑木林がなくなった！

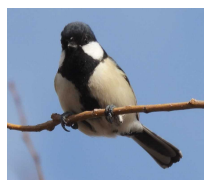


エナガ

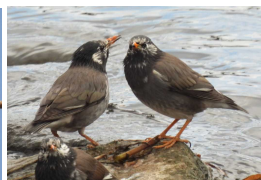
参加者から今日は“ええ写真いっぱい撮れたわ”との声。

最後に『鳥合わせ』をし、全部で38種もの野鳥が観察されました。

大半の伐採にもめげず、多くの野鳥が生息しており、たくましく生きる野鳥の生命力を感じるとともに、自然との共存を考える機会となった観察会でした。



シジュウカラ



ムクドリ



カンムリカイツブリ



イソシギ



カワアイサ

寝屋川市野外活動センターとの協働活動

第4回自然観察と環境整備

2月4日(金)

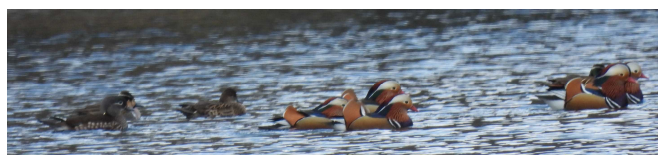
参加者 15名

この冬一番の寒波が来るとの報道の元、寒さ対策をしながら臨みました。冷たい風で冷えましたが天気は良く、活動すると寒さを感じないくらいでした。いつものように、蛍広場への階段の掃除、樹木の名札の整備、散策道の点検、落ち葉の掃除、昼食作りに分かれて作業をしました。昼食は杉本シェフの特製カレーライスでした。寒いとき辛みをきかせたり、振りかけたチーズをバーナーで焦がしたり、隠し味が施されていたり美味しくいただきました。



落ち葉の掃除

昼食後、寒谷池へオシドリを観察に。遠くの方ですが、オシドリやトモエガモなど100羽ほどいました。余り動かないトモエガモが泳いでいる姿に感動。その後、京阪奈記念公園へ行き、野鳥や植物の観察をしました。



寒谷池 たくさんのオシドリやトモエガモ

第25回(2024年度) 展示会『私の自然観察』から

楽しく広がった交流の輪！



今年度も会場はアルカスホールのギャラリーで1ヵ月遅く、2月19日(水)～25日(火)の1週間、開催しました。3連休もあり、多くの市民、関係団体の皆様との交流を広げることが出来ました。ご協力いただいた皆様に感謝します。

(1) 寝屋川市自然を学ぶ会の出展

□2024年度の活動

- ・定例自然観察会 ・みんなの掲示板 ・子ども自然シリーズ講座
- ・会報の発行 ・展示会 ・寝屋川市野外活動センターとの協働活動
- ・寝屋川市自然資料施設への協力 ・その他協力活動、他団体との連携

□分野別記録

◇定例自然観察会

・春の里山・春の淀川・水生生物・秋の淀川・昆虫・野鳥・春の野草、樹木

◇みんなの掲示板 カタクリと又兵衛桜・曾爾高原と香落谷・伊吹山・玄武洞他

◇子ども自然シリーズ講座 参加しました、協力しました他

◇展示資料 自然関係図書 寝屋川の自然など・どんぐり20種、その他木の実など

◇配布資料 ・本会活動紹介の葉・会報96～99号・当面の行事予定
・身近なガイドブック第3～8編(実費配布)

(2) 会員の出展「私の自然観察」

- | | | |
|----------------------|---|-------------------------|
| ①木に描いた絵(野鳥・魚)〈掲示物3点〉 | { | ⑫寝屋川市周辺で観察された野鳥一覧リスト |
| ②野の花を描く 〈双曲屏風 1点〉 | | ⑬寝屋川市周辺で観察された野鳥 〈写真40点〉 |
| ③富士田貫湖を歩く〈掲示物 1点〉 | | ⑭生花スイセン、クズリースの輪 〈オブジェ〉 |
| ④四国桂浜の植物 〈掲示物3点〉 | | ⑮木の実の工作・どんぐり工作の見本〈19点〉 |
| ⑤木工作・楽しい列車他 〈実物3点〉 | | ⑯打上川治水緑地のカワセミ〈写真と写真集〉 |
| ⑥木工作・くるくる玩具他〈実物4点〉 | | ⑰竹で作った干支・巳〈1点〉 |
| ⑦七福神の宝船〈作品1点〉 | | ⑱竹で作ったザリガニと石ころアート 〈7点〉 |
| ⑧山形からの雪景色 〈写真9点〉 | | ⑲どんぐり工作と鳥の絵〈作品 2点〉 |
| ⑨自然観察会から 〈写真9点〉 | | ⑳傘の折り紙と自然写真の袋 〈6点〉 |
| ⑩私の自然観察 〈写真6点〉 | | ㉑石ころアート「色即是空」 〈1点〉 |
| ⑪傘の折り紙工作 〈5点〉 | | ㉒カワセミ 写真と俳句〈掲示物 1点〉 |

展示会トピックスその1

～木の実、草の実のぶっ切り図鑑～

木村 雅行

今回もどんぐり工作を20点のほか、身近な木の実、草の実のぶっ切り面の楽しい資料を紹介していただき参加者の関心を集めていました。

なんとなく見ている木の実、草の実を切ってみると楽しい顔が見れておもしろいです。写真はコノテガシワの木の実を切ったものです。皆さんはどんなふうにご覧になりますか？



(3)関係機関・団体からの出展

- ①寝屋川市環境総務課 自然環境に関わるポスター、野鳥観察会の写真他
- ②寝屋川市立中央図書館 夏休み学習支援講座 図書館案内、パンフレット他
- ③寝屋川市野外活動センター センターの施設・事業紹介・パンフレット・木工作他
- ④寝屋川公園 公園の紹介、四季の活動、イベント紹介・散歩コース・パンフレット
- ⑤寝屋川公園・自然の会 活動紹介 年間プログラム 寝屋竹輪会紹介他
- ⑥深北緑地 公園の紹介、野鳥観察、蓮根堀体験・パンフレット他
- ⑦北河内自然愛好会 北河内の最近の野草、木の実のちよい切りクイズ他
- ⑧ねや川水辺クラブ 活動紹介 寝屋川のホタル <パネル>
- ⑨水辺に親しむ会 活動紹介、幹線水路での例会の写真、会報他
- ⑩淀川管内河川レンジャー レンジャーニュース、グリーンインフラの取り組み他
- ⑪摂南大学 PBLプロジェクト 環境学習支援 紙飛行機づくり他
- ⑫生物多様性センター センターの業務・施設・場所、パンフレット他
- ⑬寝屋川市自然資料施設運営スタッフの会 活動内容の紹介

展示会トピックスその2

公園の自然を楽しもう

寝屋川公園・自然の会

公園にはたくさんの木があります。草花もあれば川もあります。虫もいれば、鳥もいます。そんな公園の自然をみんなで楽しもうと、子どもたち向けの自然観察会や大人向けの行事など毎月開催しています。

夏のセミの羽化の観察会は、親子で神秘の世界を開きます。11月の公園フェスティバルでは、木こり体験にチャレンジします。

公園の自然を幅広く楽しむ取り組みを展開しています。



寝屋川公園・自然の会コーナー

(4)手作りコーナー(交流コーナー)



手作りコーナー

展示の見学を一段落して、展示作品についての話題を交流しながら、手作りなどを楽しみました。

たくさんのカワセミの写真については、その情景のいろいろについてその撮り方を聞いたりもしました。

手作り工作では、今年度もどんぐりペンダント、6枚羽の風車を作りました。おみやげは、木の輪のストラップの付いたかわいいチャーム、押し葉のしおりです。

参加・協力活動

地域団体などと参加・協力活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

□東図書館

「お正月を楽しもう」 1月5日(日) 協力者4名
市民会館の中にある東図書館の開催で、ぶんぶんごま、どんぐりペンダント、白いこまの色付けの工作で参加しました。小さい子がこまの色ぬりをしたり、ぶんぶんごまが回った時の色に感動したり、それぞれが楽しんでくれました。他のブースでは、こま回し、福笑い、紙相撲、だるま落とし、パタパタなどのお正月の遊びを楽しんでいました。



うまく回るかな？

□エスポアール クラフトクラブ

「キラキラスコープとどんぐり工作」 1月26日(日) 参加者12名 協力者3



キラキラスコープ作り

まず分光板を使って虹を見るキラキラスコープを作りました。筒に分光板をていねいに貼ったり、自分で考えた簡単な穴の開いた図を反対側に貼ります。星のマークに光る虹が美しく見えてニコニコしていました。

続いてどんぐり工作をしました。丸い木の板に、木の枝やどんぐりかきへてかざりか作りをした グルーガンかきへて

みんなでつくる自然資料室だよ

年末に大掃除を行い、新しい気持ちで新年を迎えました。冬休みは、少なかったのですが、子どもたちの笑顔が印象的です。

□ねやがわ自然塾（第7期）

○第9回講座 1月16日

「身近な野鳥」

- ①身近な野鳥の習性の話
- ②打上川治水緑地で野鳥の観察



治水緑地で観察

○第10回講座 2月13日

「地層と岩石」

- ①寝屋川の地層の話
- ②岩石の分類(標本作り)
- ③成田西公園で地層の観察とチャート拾い



標本作り

○第11回講座 3月13日

「続けよう自然観察」

- ①自然観察の楽しさの話(続けよう自然観察)
- ②寝屋川市の活動拠点紹介
- ③閉講式



続けよう自然観察

□子ども自然シリーズ講座

⑩ 凧と羽子板作り 12月21日(土)

子ども10名(他23名)

お正月の話の後、凧作り5名、羽子板作り5名に分かれて作りました。凧は、和紙に好きな絵を描き、竹ひごを貼りつけて親子が協力し合って組み立てます。羽子板は、好きな絵を描き、追羽根に色付けをして、2枚作りました。



凧作り

最後に、桜小学校の校庭で遊びました。少し風があったので、凧がよく揚がりました。

⑪ チョコレートパズル 2月1日(土)

子ども21名(他24名)

形の違う数種類の板を、長方形の枠にうまく納めるパズルを作ります。長方形の枠を作った後、形の違う10個のパーツをダンボールでくっつけて作ります。完成したパズルで遊びました。

「最初は納まらなかったけど、きちんと入ったうれしかった。何度も挑戦した」



次は、どの形!

⑫ ひな壇作り 3月1日(土) 子ども12名(他25名)

使い慣れないノコギリで板を真っ直ぐに切り、木と木を釘で留めて3段のひな壇を作っていきます。壇には赤の紙を慎重に貼り、後ろには金色の紙を貼っていきます。一工程ずつゆっくり進んだので、みんなきれいにひな壇を仕上げました。「きれいにできた」「好きな人形が選べてよかった」等の感想。



赤い紙を付けます

□大人自然工作シリーズ

⑨ ストーンアート

1月22日(土) 参加者23名

西村さんから石の話の後、「ポスカ」で石に描いていきます。昨年に続いてという方が3名ほどおられましたが、皆さん熱心に1時間で仕上げていました。どれも力作で、満足されていました。「重ね塗りが出来るので、きれいにできた」と。



□スタッフ研修会

京都市青少年科学センター

1月31日(金) 参加者18名

最初にプラネタリウムを見ました。冬の星の説明や木星についての話があり堪能しました。昼食後、「しゃべるティラノサウルス」など体験型の展示を楽しみました。最後に「チョウの家」で、リュウキュウアサギマダラなど3種類のチョウが飛び交う中、さなぎや幼虫の観察もできました。満足した研修会になりました。



チョウの家で

寝屋川市付近 自然観察ポイント

① 淀川河川公園



- ◇仁和寺、点野、太間地区
- ・春の野草、昆虫、タンポポの群落
 - ・秋の野草、木の実、昆虫
 - ・冬の野鳥
- 淀川まるごと体験や
いちよう祭もあります。
- ◇上流地域の出口地区、枚方地区、
背割り地区もポイント

③ 友呂岐緑地

- ・水路に沿った樹木
- ・水辺の生きもの
- ・野鳥
- ・伏越樋、三枚板舟
サクラのトンネル



⑤ 南寝屋川公園

- ・秋の木の実、木の葉
 - ・昆虫
- ジャコウアゲハ



(新しい公園に整備中)

⑦ 東部丘陵

- ・春の野草 れんげ畑
- ・秋の野草
- ・里山の自然が美しい
キツネアザミ
タツナミソウ



⑧ 深北緑地

- ・木の実、木の葉
どんぐり
- ・池の野鳥
- ・昆虫観察
- ・バッタの運動会



寝屋川市自然を学ぶ会では、発会以来、寝屋川市内を中心に身近な自然観察会を継続してきました。東に東部丘陵地、西に淀川河川公園など四季折々興味ある自然に触れてきました。その足跡はその都度会報に掲載、ガイドブックにもまとめてきました。これからもみんなで身近な自然に親しみ、身近な自然を大切にしたいと思います。

生物多様性センター
淀川の自然
展示室にイタセンパラ



寝屋川市から近くの観察地

- ・四條畷市田原地区 樹木、きのこ
- ・交野市河内森 シダの観察
- ・星田園地 秋の野草、きのこ
- ・山田池公園 樹木、野鳥ほか

私市植物園
樹木、野草 カタクリ

② 寝屋川

- ・幸町親水公園
 - ・川勝水辺広場
 - ・市駅前せせらぎ公園
- 水辺の生きもの
メダカ調査
水生生物観察会



高宮地区・田んぼの楽校

④ 打上川治水緑地

- ・春の野草
- ・秋の樹木
- ・冬の野鳥
- ユウゲショウ
- メタセコイア並木
- サクラのライトアップ



⑥ 寝屋川公園

- ・木の実、木の葉
どんぐり
- ・野鳥、昆虫
- ・打上川では水辺の
生きもの
夏にセミの羽化観察
秋に「公園フェスティバル」



⑨ 寝屋川市野外活動センター

- ・自然体験、デイキャンプ
- ・森の探検
- 動物、昆虫、木の実、木の葉
自然がいっぱい



身近な自然ガイドブック

身近な自然ガイドブック 寝屋川市近くの里山 里山を歩こう 驚き 発見 遊び  自然は おもしろい	目 次 里山ってなあに？ コース地図 1.寝屋川市野外活動センター 2.寝屋川市東部丘陵コース 3.寝屋川市源流コース 4.四條畷・田原コース 5.飯森霊園から星田園地コース 里山で遊ぼう こんなところもあるよ	見どころ ・里山には様々な生物が生息し、四季を通して自然観察に絶好の場所 ・散策コースと季節ごとに観察できる生物を紹介 
身近な自然ガイドブック 新版 春の淀川  自然は おもしろい	目 次 植物観察の基本的な視点 1.仁和寺・点野地域の植生 点野わんど周辺で 見られるトンボ 2.太間・木屋元・出口地域の植生 3.枚方・磯島地域の植生 淀川で見られるチョウと 食餌植物 4.八幡背割堤地域の植生 5.淀川全域で見られる植物	見どころ ・春に見られる多くの生物の観察 ・美しく咲く春の野草を観察し、自然の面白さや生命の不思議を体感 
身近な自然ガイドブック 秋の淀川  自然は おもしろい	目 次 植物観察の基本的な視点 1.仁和寺地域 2.点野地域 3.太間・木屋元・出口地域 4.枚方・磯島地域 5.八幡背割堤地域 6.淀川全域で見られる植物	見どころ ・秋に見られる背割堤から仁和寺までの淀川左岸の植物についてまとめたもの 

ガイドブックは、学ぶ会の会員が歩いた記録です。改訂を行い、より身近な冊子になるように心がけてきました。定例観察会には、ガイドブックの活用をお奨めします。



目次	見どころ
昆虫探しを楽しむために 1. 身近に見られる昆虫 2. 水辺で見られる昆虫 3. 林の近くで見られる昆虫 4. 葉っぱの上で見られる昆虫 5. 地面を動きまわる昆虫 6. 草地や河原で見られる昆虫 主な昆虫観察地	・ 昆虫は、空を飛ぶ姿や、地面を歩く姿を身近に観察できる生き物 ・ 昆虫は、卵から幼虫、成虫に成長するために必要な食べ物が十分ある場所に暮らす生き物 



目次	見どころ
植物に親しむために ○どんぐり コナラ、クヌギなど 13 種 ○熟した木の実 モチノキ、ムクノキなど 20 種 ○色づく木の実 ハゼノキ、ケヤキなど 10 種 どんぐりで遊ぼう 寝屋川公園どんぐりマップ 深北緑地どんぐりマップ こんなところもあるよ	・ 寝屋川市とその周辺で観察できるどんぐり・木の実や葉についてそれぞれの特徴をまとめている 



目次	見どころ
野鳥に親しむために 1. 身近に見られる野鳥 2. 淀川の野鳥 ◇点野～太間地区◇枚方地区 3. 打上川治水緑地とその周辺 4. 野外活動センターの野鳥 ◇センター内◇周辺◇寒谷池周辺 こんなところもあるよ	・ 年中見られる鳥、季節ごとに渡ってくる鳥、移動の途中に立ち寄る鳥など「いつ」「どこで」見られるかがわかる 

自然はすばらしい シダ植物シリーズ 8

イノデ 猪の手 *Polystichum polyblepharon* (Roem. ex Kunze) C. Presl オシダ科

天野 史郎

交野の山のスギ林の林床にはイノデがごく普通に見られます。葉は2回羽状複葉で、短い根茎から車座に立ちあがり、発育のよいものでは1mくらいに生長します。イノデは常緑ですが、春先には昨年の葉は葉柄基部の組織がもろくなり倒伏し、株の中心から新たな葉が展開します。芽立ち時の毛むくじゃらな葉柄の鱗片の様子をイノシシの手に見立て、猪の手とよばれるようになりました。小羽片(図1参照)は左右不对称で独特な形をしており、これだけでイノデの仲間であることがわかります。



葉を展開したばかりのイノデ

シダ観察会の定例コースの河内森の谷は、かつてイノデ、アイアスカイノデが多産し、その雑種ドウリョウイノデも多く見られましたが、今ではすっかり少なくなりました。また、谷の奥にはサイゴクイノデ、カタイノデが見られます。カタイノデは2011年に谷の底で見つかりましたが、ここ10年以上は再見していません。

アイアスカイノデ(間飛鳥猪の手)は当初、イノデとアスカイノデの間種と思われ、このような名前がつけましたが、後に独立種であることがわかりました。アスカイノデの名前は東京都中央区にある飛鳥山に由来しますが、実は飛鳥山で採集されたものはアイアスカイノデであることが、後に明らかとなりました。イノデの仲間は種類が多く、その違いが見えるようになると一段と愛着がわくようになります。また、イノデ類は容易に雑種を作り、その見分けとなると難易度が上がりますが、楽しみもさらにアップします。

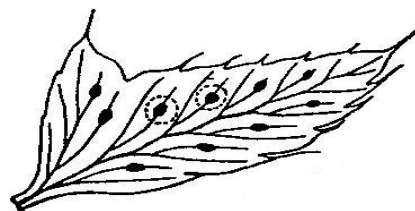


図1: 小羽片

イノデの学名については、従来の図鑑類では長らく種小名に *polyblepharum* が使用されてきましたが、これは誤りで *polyblepharon* が正しいと、佐藤淳(1997)により指摘されています。元の学名は *Aspidium polyblepharon* でしたが、属を *Polystichum* に移しかえる際に誤り、そのままになってしまったようです。最新の図鑑類では訂正されていますので、確認されるとよいでしょう。



芽立ち時の鱗片が目立つ
下部に倒伏した葉柄がみえる

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「三葉虫のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「アンモナイトの不思議1～4」をお届けしています。

アンモナイトの不思議4

「アンモナイト化石発掘記」

西村 寿雄

前回まではアンモナイトの生きていた様子をお話ししてきました。もちろん今はアンモナイトは化石でしか見られません。アンモナイトの生きていた中生代(約1億年前)の地層は日本にもたくさん出ています。近くでは、淡路島や和歌山県などもアンモナイト化石は出ます。でも何ととっても大々的に出るのは北海道です。その北海道に私がアンモナイト化石を掘りに行った話をしましょう。

時は2004年6月、仮説実験授業研究会の仲間と共に北海道のほぼ中央にある三笠へ行きました。三笠に着くと、化石掘りベテランの案内人についていくことになりました。

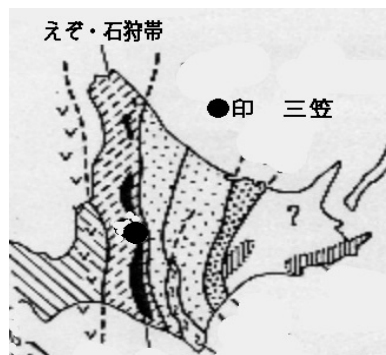
場所は写真でご覧の通り深い森の中、化石よりクマのよく出る所だそうで、案内人は鈴より爆竹を持っていました。しばらく行くと今クマが食べたフキが見えるといいます。「クマが近くにいる」と案内人の声、背筋がゾクッとしました。案内人はさっそく爆竹を鳴らしました。すごい炎症の臭いです。クマが嫌がる臭いだと案内人は言っていました。でも、「もしも目の前にクマが出たら・・・」と緊張感があふれました。やがて谷深い川原に出ました。

ここでは化石が見えるのかと思ったら、みんな大きな石ころを大きなハンマーで割り出しました。アンモナイトの化石の多くは石ころの中にあるといわれています。ノジュールと言われている石です。石の中は見えませんが、いくつか石を拾いました。後で石を割って確かめるのですが、当たる場合もあるし当たらない場合もあります。

そんなこんなで出てきたいくつかのアンモナイト化石の入った石をカバンに詰めて、やっとの思いで地上に出ました。やれやれ。

近くに三笠市立博物館があるので案内されました。ここはさすが地元の博物館で、大きなアンモナイト化石がずらりと並んでいました。展示も豊富でした。あとで、近くの川原に出て転がっている化石を拾いました。ここでもアンモナイトの化石のいくつかは拾えました。

おわり



私の自然観察

身近な昆虫 48

—オオムラサキ—

高本 憲二

自然を学ぶ会の会報 100 号おめでとうございます。100 号の記念にふさわしい昆虫として日本の国蝶オオムラサキを取り上げようと思い、写真を探してみるがなかなか見つからない。やっとあったのはもう 10 年以上も前の写真だ。そんなに長い間オオムラサキに出合っていない。私がいま里山を歩かなくなったせいもあるかもしれないが、オオムラサキも数を減らしているのでしょう。10 年ほど前は夏に里山に行くときヌギの樹液でスズメバチやカブトムシと樹液の奪い合いをしている姿をよく見かけたものです。



日本でオオムラサキが普通に見られたのは、里山文化と関係が深い。オオムラサキの幼虫はエノキの葉を食べる。エノキはどこにでもある雑木で江戸時代には一里塚としても利用されていた。里山ではクヌギやコナラは薪や炭の原料として、よく利用されていた。

オオムラサキは樹液が大好きだ。ボクトウガの幼虫が木の幹に住みつくと、その穴から樹液が出る。そこにスズメバチがきて穴を掘り、たくさんの樹液が出るようになる。

そこにはオオムラサキをはじめとする多くの昆虫たちが集まり、樹液酒場となる。樹液酒場ではオオムラサキは気性の荒い女王様でカナブンやスズメバチをその大きな翅で追い払い一番いい場所に陣取る。

オオムラサキの幼虫は、かわいらしいウサギ顔。エノキの葉の上に台座を作り食事に出かけても必ずここに戻ってくる。幼虫も気性が荒く、ほかのイモムシに出会うとツノを振り回して葉の上から落としてしまう。

エノキの葉をたくさん食べた幼虫は、寒くなると体の色を褐色に変え、幹を下っていく。そしてエノキの枯葉の中に潜り込んで越冬します。



近所の公園にもエノキはたくさんありますが、オオムラサキを見かけたことはありません。きれいに整備された公園では越冬できる落葉はなくオオムラサキはすむことができません。

オオムラサキはいま開発や植林などによって樹林の面積が狭くなり、減少傾向にあるそうです。良好な里山環境のシンボルとして、各地で保全活動も行われているようです。

今年の夏は、ぜひとも里山を訪れて 10 年以上ぶりのオオムラサキを写真に収めようと思います。

図書紹介 ～こんな本が出たよ～

『水の惑星「地球」』BLUE BACKS

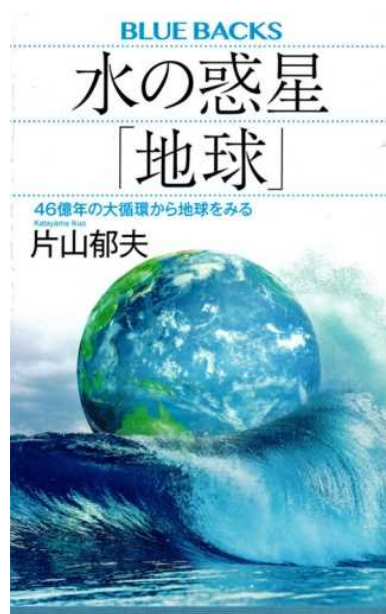
BLUE BACKS だが文章は平易で中高生なら読める。地球は宇宙でもただ一つの液体水を保有した星として知られている。液体の水のあるおかげで、地球には生命が生まれ私たち人類も生きていられる。この本は地下も含めて、地球が保有する水資源全体を取り上げて論じている。いったい多くの水は地球のどこにあるのか。そして、どんな働きをしているのか。そして、将来どのように変わっていくのか、様々な角度から論じられている。地球の水は、岩石にも大量に含まれている。その岩石(海底玄武岩)は海洋のプレートを通じ、海溝で潜り込み、そこで水が吐き出され、地下のマグマに取り込まれて、火山活動で地上に吐き出されている。水は地球を一巡しているという。今、その収支のバランスが崩れていて、約6億年後には地球から海が無くなるという。なんとも壮大な話である。

地球は大陸プレートと海洋プレートとに分かれているが、大陸プレートの方は海洋プレートより軽い。大陸移動が起こる由縁にもなっている。海洋プレートの沈み込み部で水が取り込まれ、新たなマグマが生まれて大陸プレートを作っている。その大陸プレートが生まれるには水が大きな働きをしているという。今も深海に熱水噴出孔がある。ここでは酸素も乏しいのにたくさんの生命が生きているという。この話は今までにもあったが、陸上の温泉地帯も生命活動に最適という。ここには好熱性の微生物がわんさかいるとか。温泉が生命誕生の元という仮説もある。もちろん生命は宇宙からやって来たという説もありまだ決着はついていない。地球の中で金属の液体が生まれたこと(外核)が生命進化を促進するもととなった。地球にある液体の金属(主に鉄)のおかげで磁力が生まれ太陽からの太陽風や宇宙線から地球が守られ動植物の繁栄が可能になった。地球内と地上との二酸化炭素のやり取りのバランスもうまく取れていたという。それが近年では人間による産業活動の結果崩れてきた。地球温暖化は益々加速するか。興味ある話が満載である。

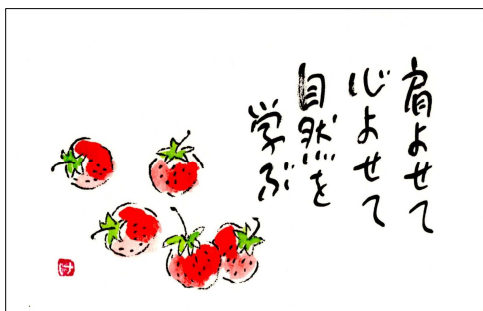
2024年11月刊 1,000円

<西村 寿雄>

片山郁夫著 講談社



絵手紙紹介



内田 桂子

新会員紹介

会員数180名

坂口 洋子
(敬称略)

行事予定

□第8回定例自然観察会

私市植物園を散策

◇日時：2025年3月20日(木・祝)

9:30～12:00 雨天中止

(ゆっくりできる方は自由見学)

◇集合場所：大阪公立大学附属植物園正門前

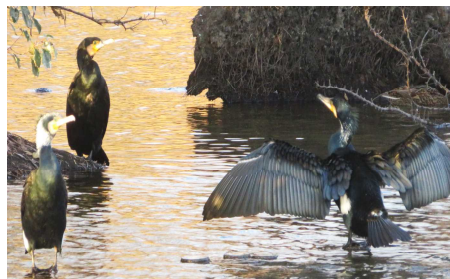
◇持ち物：水筒、雨具、筆記用具、(弁当)

◇入園料：350円

*中学生以下無料・府内在住 65歳以上 150円

(年齢・住所を証明するもの：免許証等)

◇駐車料：500円



カワウ (打上川治水緑地)

□2025年度第1回定例自然観察会

東部丘陵を歩く

◇日時：2025年4月22日(火)

9:30～14:00 雨天中止

◇集合場所：JR 寝屋川公園駅東口バスロータリー

◇持ち物：水筒、弁当、雨具、ガイドブック

◇丘陵地の春の野草を観察



キツネアザミ(東部丘陵)

□第2回定例自然観察会

淀川河川公園点野野草地区

◇日時：2025年5月5日(月・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合場所：淀川河川公園 太間地区駐車場

◇持ち物：ガイドブック「春の淀川」水筒、雨具、(弁当)

◇春の野草や昆虫を観察

*右のQRコードから自然を学ぶ会HPもご覧ください。

*お知らせ みんなの掲示板(自然観察会)、4月実施予定の「カタクリ」は、都合により中止します。

2025年度・寝屋川市自然を学ぶ会

総会案内

◇日時：2025年4月29日(火・祝)

◇場所：市民会館 2階 第1会議室

TEL: 072-823-1221

□ 総会

9:30 受付

9:45 開始

① 2024年度 活動報告・会計報告

② 2025年度 新役員選出

③ 2025年度 活動計画・会計予算

□ 記念講演 10:40～

「生物多様性について」

講師：生物多様性センター

丸山 勇氣さん

□ 参加者の交流

自然に関わる話題を交流します。

みんなで楽しみましょう。

☆会員でなくても、関心のある方のご参加を歓迎します。

11:50 閉会



編集後記

会報100号をお届けします。2000年6月に第1号を発行以来、年に4回発行を続けて、今回は記念すべき100号の発行になり、全16頁カラー版でお届けします。増頁分ではこれまでの活動をまとめる形で、身近な自然観察マップをまとめました。ガイドブックの活用と合わせてご利用下さい。これからもこの会報が一層充実した内容となり、会員の交流の場としての編集に努めて参りますので、今後ともご協力よろしくお願い致します。